

MeetingMinutes

会議名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会(BSIJ協議会)第5回	記録	塚原
日時	2021年11月30日(火)10時~12時	確認・発行者	森谷
場所	Web会議(ZOOM)	発行日	2021年12月1日

出席者(順不同・敬称略) ただし、●は出席予定者、○は欠席予定者を示す

座長	● 森谷靖彦	● 副座長 村瀬弘幸(情報委員会WG主査)
委員	● 志手一哉(情報委員会委員長)	○ 日本建築士会連合会:横松邦明
	● 専務理事:前田伸子	● 日本建築士事務所協会連合会:加藤政弘
	● 加納恒也	● 日本建築家協会:筒井信也
	● 田中洋介	● 日本建築構造技術者協会:馬場勇輝
	● 菊野 格	● 建築設備技術者協会:山下浩一
	● 比嘉俊介	日本ファシリティマネジメント協会:飯島勇、●松岡辰郎
	● 谷内 秀敬	● BIMライブラリ技術研究組合:寺本英治
	● 高橋 肇宏	● 日本不動産鑑定士協会連合会:立石正則
	● 大越 潤	● 建設物価調査会:高橋俊一
	● 須貝成芳	○ building SMART Japan:三戸景資
	○ 中嶋 潤	● 建築研究所:田村篤
オブザーバー	○ 日本ファシリティマネジメント協会:猪里孝司	● 建設業振興基金:中緒陽一、帆足弘治
	● 建築・住宅国際機構:西野加奈子	● 建設物価調査会:島田理久、丸木健
	● 建築コスト管理研究所:岩松 準	○ 不動産協会:久津輪太
国土交通省	● 国土交通省 住宅局 建築指導課:鈴 晃樹	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:小澤 剛
	● 国土交通省 住宅局 建築指導課:横田圭洋	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:城澤道正
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:中田 修
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:若桑節治
事務局	● 事務局長 塚原 均	以上35名
配布資料	No.	
	1	(資料1)BSIJ協議会委員名簿
	2	(資料2)第4回BSIJ協議会議事録(案)2021年3月15日版
	3	(資料3)BSIJ協議会の活動報告(部会間連携等について)
	4	(資料4)BSIJ情報委員会2021年度活動報告(中間報告)
	5	(資料5)BSIJ情報委員会分類体系WG/各チームからの報告
	(資料6)その他関連資料	

議事次第

NO	ITEM No.	FROM	TO	ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE
1	報告事項						
	1	森谷	ALL	委員名簿および前回議事録確認等 委員名簿および前回議事録を確認した。	1 2		
	2	森谷	ALL	今年度のBSIJ協議会の活動について 2021年度の中間発表として、それぞれの担当WGチームからこの後、詳しく説明するが、建築BIM推進会議各部会との連携強化をさらに進めたいとの説明があった。	3		
	3	志手	ALL	今年度の情報委員会の活動について(中間報告) 米英・北欧でそれぞれBIMとしてのコスト面における分類体系が進められているが、我が国での議論も各国に遅れることなく有利な状況にあるとの説明があった。	4		
	4	村瀬	ALL	情報委員会分類体系WGの活動報告等(各チームからの報告) ・分類コードWG(村瀬):昨年度からの成果のおさらいをして、さらに対外的に理解されるためのガイドラインを作成し、展開予定であるとの説明があった。 (1)翻訳チーム(田中):昨年度は、パブリックコメントや第三者ネイティブチェックを反映した、Uniclass2015の日本語訳を当協会ホームページにて公開した。今年度は、①最新版アップデート内容の精査、②LOCチームと協働でマッピング、③専門団体JWMA(防水材料)様と翻訳内容の確認を行っている状況。今後はPr.Teテーブルの翻訳精査、検索システムの整備について、作業を進めていくとの説明があった。 (2)LOC(Level of Costing)チーム(比嘉):モデル建物のS4段階の細目とUniclass2015のマッピング、ステージ別概算アウトプットのイメージ(部分別・工種別)を中心に作業を進め、①情報の整理、②情報の結合までを行い、今後の目標として、③モデルの確認(情報の有無)、④LOCの策定を行うとの説明があった。 (3)設備チーム(谷内):BIM積算のユースケースをつくる目的で、①ステージ別概算方針のすり合わせ(手法の共有)、②ステージ別概算アウトプットLOC策定、③Uniclass2015適用可能性検討、④LOCとUniclass2015マッピング、⑤S3標準モデル(ユースケース作成)、⑥S3標準モデルをS2イメージ、⑦ステージ別概算アウトプットイメージ、⑧サンプルモデルに当てはめる、の順を追って作業するとの説明があり、プロセスマップ作成による情報提供としてユースケースをつくって発注者に提供することを想定している。	5		

MeetingMinutes

会議名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第5回			記録	塚原
日時	2021年11月30日 (火) 10時~12時			確認・発行者	森谷
場所	Web会議 (ZOOM)			発行日	2021年12月1日
5	森谷	ALL	<p>その他 (質疑応答) および事務連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴 (国土交通省建築指導課): ユースケースを作成する要請はあるが、BIMによる積算ができるのと何が良いのですか、というゴールイメージが見えない。積算業界だけの小さな評価ではなく、どういう意味からやっているのか、発信すべきではないか。スペック記述のメリットもあるだろう。 ・菊野委員: 分類コード、BIMモデル、統合モデルをつくることで、同じプラットフォームで管理でき、オープンな使い方により、複数あるいは中長期の連携がシミュレーションでき、アーカイブ化された自動化の手助けとなるメリットが考えられる。 ・谷内委員: 建物発注者へのコスト情報として、物に対してのライフサイクルコスト (LCC) を示すことで環境負荷のCO2削減を検討することができるメリットもある。 ・立石委員: 2030年の温室効果ガス目標を2013年度比46%削減という政府方針を背景に脱炭素の動きは国内不動産でも加速している。機関投資家はESG投資の一貫としてグリーンビル評価を取得している建物への投資を進めている状況で、CO2削減の可視化は社会的にニーズがある。ところで、弱電のようにオブジェクト化しないものがあると思われるが、LOCでその対応はどうするのか。 ・谷内委員: 建物モデルのS2段階では、当然、限られた情報の中でスペースの規模による概算となる。 <p>・森谷座長: 分類体系の検索システムの紹介として、試作に日本語でキーワードを入力すると1万5千件の中から抽出できる。公開に際しては目安箱のような機能を付加して、日本語訳についてのコメントを受けられるようにしたい。情報発信に力を入れると共に、その使い方等に関して意見を取り入れる仕組みを考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺本委員: 検索システムに期待する。部会の連携としてUniclassの適合性を確認したい。 ・田中委員: Uniclassの意識が、実務を見据えた検索に繋がるように、意見徴収しながら検討していきたい。 ・志手情報委員長: 広く分類体系をつなげること (マッピング) で、ネットワークを駆使した使い方ができる。その共通のプラットフォームとしてUniclassがある。今後はセマンティクスにUniclassとBELCA、UniclassとRIBCなど、マッピングとマッピングをつなげることが重要になってくる。 ・小澤 (国土交通省営繕部): 設計、積算、施工の分業体制の中で、BIMデータを相互利用しているものでも、多数の情報は連携できていないという現状があるため、分類体系のマッピングの進展に期待したい。一方、情報の全てをBIMに載せることは効率面等を考えると現実的でないと考えており、どのくらいの情報をBIM連携させるかや、それ以外の情報はどのように取り扱うか (例えばExcel等で別途連携するなど) についての検討がなされ、現実的かつ業務効率化につながる目安のようなものができるといいと思う。 <p>森谷座長: 2021年度後半の活動予定として、検索システムの公開とその機能強化を実施し、2022年3月頃に今年度の成果発表のBSIJ協議会開催を予定している。 国土交通省のBIM推進会議での指針の中で、BSIJ協議会は特に「国際標準・基準に沿って進める」に力点を置いていることの説明があった。</p>	6	
2	次回の開催予定				